



カタツムリの歯は本当に2万本もあるの

カタツムリの歯は、舌の上にある

カタツムリの歯は、人間やイヌなどの歯とちがっています。

カタツムリの口の上側は、キチン質(カブトムシのよろいのような外皮や、カニのからなどを作っている、かたいたんぱく質)でできた、かたいくしのようになっていて、がん板とよばれています。また、口の中にある口球とよばれる舌の上には、やすりのように、小さい歯のようなものが並んだ歯舌があります。この歯舌を、カタツムリの歯といっています。

歯舌は2万本くらいある

歯舌は、ちょうどダイコンなどをおろすのに使う、おろし金に似た感じで、小さい歯が口のおくの方にむかって、きそく正しくびっしり並んで生えています。

カタツムリは、キャベツの葉などにがん板でかじりつき、歯舌でその表面をけずりとって食べているのです。

この歯舌を顕微鏡で見た例では、0.3ミリ×0.5ミリの中に、84個の小さいおろし金の歯のようなものが数えられました。これからおよその数を計算してみると、2万本以上はありそうです。歯舌の形は種類によってちがうので、種類分けや、同じ仲間であることの判定などの目印になっています。(監修・中山 周平)

